

令和2年度美術鑑賞事業

立川市役所アート鑑賞ツアー

ご案内



立川市役所

令和3年3月13日(土)

主催:公益財団法人立川市地域文化振興財団

立川市錦町 3-3-20

たましん RISURU ホール(立川市市民会館)2階

連絡先: 042-526-1312

【目次】

本日のスケジュール・・・・・・・・・・・・・・・・2
公益財団法人立川市地域文化振興財団について・・・・・・・・3
立川市役所について・・・・・・・・・・・・・・・4
立川市役所にアートができるまで・・・・・・・・・・5
立川市役所の彫刻・オブジェ(7点)・・・・・・・・・・ 6
立川市役所の絵画 (2点)・・・・・・・・・・・・13

【本日のスケジュール】

- ※()内の時間は目安です。スケジュールは変更する場合があります。
- 10:00 受付開始
- 10:10 オリエンテーション
- 10:15 立川市役所内オブジェ等ご案内
- 11:30 アンケート記入・解散

■公益財団法人立川市地域文化振興財団について

公益財団法人立川市地域文化振興財団は、文化芸術の振興に関する事業を推進し、地域社会の発展及び健康で豊かな市民生活の形成に寄与することを目的に、昭和63年4月に、立川市の外郭団体として設立されました。平成2年10月には立川市市民会館の管理運営を立川市から受託し、市民会館を拠点とした様々な文化芸術活動などを通しコミュニティ振興のための事業を展開してきました。平成23年4月からは公益財団法人としてこれまで以上に公益性を重視し、より多くの市民の皆様に文化芸術に触れる機会を提供できるよう、市民会館から市内全域に活動を広げ様々な文化事業を展開しています。平成25年4月には25周年を迎え、平成30年4月には30周年を迎えました。

■財団の美術鑑賞事業について

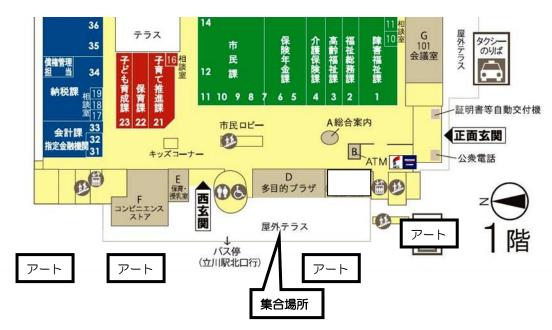
当財団では、国内の優れた芸術作品に触れる機会を市民の方にご提供するため、美術館を訪問し専門員などのレクチャーを受けるとともに、季節の花や自然・歴史、芸術作品に触れる美術鑑賞事業として、平成20年度及び平成21年度については静岡県立美術館を訪ね、日本最大級のロダンコレクションの鑑賞を行ってきました。[平成22年度は東日本大震災の影響により急遽中止]。平成23年度はフランスの印象派・ミレーコレクションを有する山梨県立美術館と桔梗屋・お菓子の美術館を鑑賞しました。平成24年度は国内最大級のコレクションを有する東京国立近代美術館の常設展と北区の紙の博物館を鑑賞し、平成25年度は広く西洋美術全般を対象とする国立西洋美術館を、平成26年度は世田谷美術館を、平成27年度は聖徳絵画記念館と国立近代美術館を、平成28年度は江戸東京博物館とすみだ北斎美術館を、平成29年度は長野県大町市の国際芸術祭を鑑賞しました。

■財団の主な文化事業について

- 〇鑑賞事業…クラシックやポピュラーなど音楽や、演劇・古典芸能などの舞台芸術鑑賞 事業、**美術鑑賞事業**
- 〇普及事業…市民オペラ、演劇祭・**市民絵画展**・吹奏楽などの市民参加型普及事業、 ロビーコンサート・出張ステージなどの鑑賞型普及事業
- ○支援事業…若手アーティストや市民団体への活動支援事業、立川市と連携し企画提案 や事業実施する企画相談事業
- ○広報・友の会事業…文化芸術に関する情報の収集や発信のための情報紙やホームページの運営、友の会制度
- ○地域コミュニティの活性化及び振興事業… 市民祭などのコミュニティ事業、**ワークショップ事業**など

■立川市役所について①

立川市役所は地下 1 階、地上 3 階建てです。ツアーの際は外側階段や屋上も通る予定です。 まずは、1 階です。アート作品がところどころにあります。



2階には屋外テラスにアート作品があります。



屋上にもアート作品があります。皆さんで鑑賞しましょう。

立川市役所は平成 22 年 5 月 6 日に開所しました。長寿命な構造で 100 年使用を目指しています。自然エネルギーを活用した省エネを行っています。大平面の構造により、1 階にはほとんどの市民サービス窓口を配置、ご利用頂いています。

敷地面積 11,000 ㎡ 述べ面積 25,981 ㎡

■立川市役所にアートができるまで

アート設置が決まるまで一

これまで立川市では、平成に入った頃より、市内各所に彫刻や歌碑などを少しずつ設置し、屋外のアートという文化の土壌を育んできました。この土壌の上に、平成6年には、現在の多摩都市モノレール立川北駅そばに建設された11のビル群からなる「ファーレ立川」の109のアート作品が設置されました。この立川のまちの大きな財産であるファーレ立川を起点として、以後、まちなかで文化芸術を楽しんで頂こうとする考え方、「まち全体が美術館」構想に基づき、文化振興に取り組んでいます。

この市役所を含む周辺地域では、市役所庁舎移転に伴い、 立川拘置所、東京地方裁判所、立川法務総合庁舎、国文学 研究資料館及び国立国語研究所といった同時期に移転してきた 各施設、または自治大学校や民間マンションの協力の下、 アートのあるまちづくりを進めてきました。

市役所アート設置の仕方一

立川市の新しい庁舎にふさわしいアート作品の設置を目的に、まず、平成20年度に、学識経験者と市民公募委員から成る「立川市新庁舎アート計画策定委員会」が基本的な考え方「新庁舎アート計画報告書」をまとめました。また、続く



若山牧水 歌碑 『立川の駅の古茶屋さくら樹の もみぢのかげに見送りし子よ』 ※立川駅北口 10番バス乗り場そば



青木野枝 空池-Ⅱ ※国立国語研究所

平成 21 年度には、この報告書に基づき「新庁舎アート選定委員会」ができ、この委員会が 指名した作家と、公募により選ばれた作家がそれぞれ 3 つずつ作品を制作しました。

メモ		

アート番号(1)

作 品 名 an organic imagination

(アン オーガニック イマジネーション)

一有機的形体の創出―

作者名 磯崎真理子(いそざき・まりこ)

設置場所 市役所屋上

設置個数 43 (ブロンズ、大理石製含む)

この作品は、自然界から得たインスピレーション(ひらめき)を形にした、と作者は話しています。

作者は作品と空間の関係、作品が空間へ関わっていく過程で周囲との間に生まれる空気 感のようなものに興味があり、それらのことを模索しながら、日々制作しているといいま す。

また、本作品では、屋上の緑との対比を意識して、赤色を用い、コントラスト(対比) を表現しています。

この作品については、いかにも設置した、というよりは、天から降ってきたような偶発的な存在にできればいいとのことです。

以上のように、作者の制作の際の考え方や感覚は言葉にすると少々難解な部分があるかもしれませんが、それとは対照的に、色、形状、数の多さ、また屋上に設置されていることもあり、非常に親しみやすい作品です。また、単純に「何に見える?」など、観る側の人々の想像力に訴える力の強い作品です。西側の畑の中には小型のオブジェがたくさん置かれており、「家族みたい」といった感想も頂きました。

この作品は「新庁舎アート選定委員会」が作者である磯崎さんを指名して、制作されました。





アート番号②

作品名 garden drops (ガーデン ドロップス)

作者名 祐成政徳(すけなり・まさのり)

設置場所 2階屋外テラス 【 文 設置場所】

柱(FRP製、ウレタン塗装)は7本、強化ガラスは4箇所



幅約7m、長さ約60mのオープンデッキスペースが、自然と共鳴する庭のように構成されています。西側道路沿いの街路樹と共鳴するような空間構成です。

ウッドデッキには直径 1m20 cmの強化ガラスをはめ込んでいます。このガラスは通気性と建物 1 階とのつながりをイメージしたものです。

柱に似た立体オブジェは、人工物である建物の延長として見えると同時に、自然の有機性を感じます。柱は、自然と人工物の橋渡しのような役割をもたせようと意図されています。

なお、水色の強化ガラスの下には LED 電球があり、本来は夜間、隣のアップライトとともに発光しますが、震災以後節電のため消してあります。

柱の材質である FRP は繊維強化プラスチック(Fiber Reinforced Plastics)の略で、ガラス繊維などの繊維を中に入れて強度を向上させたプラスチックのことです。また、ウレタン塗料ですが、その耐久年数は 7~10 年といわれています。ウレタン塗料は、柔らかい性質を持っており万能系の塗料です。柔らかく密着しやすい性質があるので、細部の塗料に適しているといったメリットもあります。

この作品は新庁舎アート選定委員会が作者である祐成さんを指名して、制作されました。



アート番号③

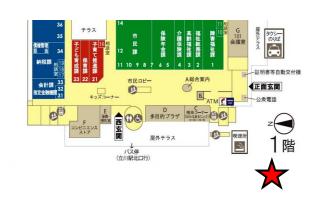
作品名 一片の波(いっぺんのなみ)

作者名 大槻孝之(おおつき・たかゆき)

設置場所 正面玄関横

【 ★ 設置場所】

素 材 コールテン鋼、リンシードオイル仕上げ



この作品は周りから鑑賞するだけではなく、作品の中を人が通り、行き来できる門のようなアーチ状の構造になっています。

人々が作品の空間に入ることで、通り抜ける風や光の移ろいや変化を感じることができ、 作品を通してその向こう側に見えるあらゆるもの、例えば木々の緑や空の広さなどを改め て感じてもらいたい、との意図で作られました。また、急に降り出した雨の時などは作品 の下で、大きな葉っぱを傘代わりにして遊んだ子どものときの記憶がよみがえるかもしれ ませんし、同じアーチの下を行き来する人が挨拶を交わすなど、和んだ雰囲気が生まれる かもしれない、というのが作者の考えです。

この作品は緑豊かな立川市のイメージから曲線を使って開放的な色と形にされています。 庁舎周辺は空が広く感じられ、遠く奥多摩の山並みが見渡せる場所であり、この形状は周 辺環境に合うだろう、と考えられています。

タイトルは、一方の波が波紋となって拡がっていく起点のような、開放に向かうイメージで付けられています。作品の高さは何と 5.45mもあります。

なお、素材となっているコールテン鋼ですが、これは、鉄の弱点である錆びを水に濡れる一乾く一を繰り返すことで自ら作り出す「保護性錆び」で抑制できる素材です。錆びを防ぐための有機溶剤塗料を用いることなく、長期間の耐候性が保持されるので、環境にやさしい素材とされております。

また、リンシードオイルは、油絵具でよく使われる乾性油の一種です。乾燥が速く、丈夫な皮膜を作る一方で黄色く変色する性質があります。

新庁舎アート選定委員会が作者である大槻さんを指名して、制作されました。



アート番号④

作品名 中心から広がる世界

作者名 土屋公雄 APT (つちやきみおアートプロジェクトチーム)

※作者名 土屋公雄、石山和弘、木村恒介、田原唯之

この作品は自然木に文字を刻み、ブロンズに鋳造して作成されました。「私ノ根ハココニアル。コノ中心ノ足元カラ枝ヲ伸バスヨウニ想イヲ天空へ。限リナイ夢ハ星々ヲ巡リ、銀河ヲ越エ宇宙ノ果テマデ届キ、ソシテ再ビ地上へト降リ注グダロウ」と刻まれています。このアートの木を起点に、個人から立川、東京、日本、世界、宇宙へ向け無限大のイメージを広げてほしい、と作者は考えています。

B ATM

D タ製エーナー (学校ニーナー (学校ニーナー (学校ニーナー (学校ニーナー (学校ニーナー (学校ニーナー (学校に)) (学校ニーナー (学校に)) (学校に) (学

一公衆電話

また、周辺の樹木が四季折々の色合いを見せる中で、ある時は際立ち、またある時は周辺に同化するというように、季節によって違った眺め方のできる作品です。

公募で選定された土屋公雄 APT によって制作されました。







アート番号⑤

作品名 一冊の街

作者名 小沢敦志(おざわ・あつし)





作者は、立川市内の共同アトリエ「石田倉庫」で1300℃の炉で加熱したスチール製の 廃材を来場者にハンマーでたたいてもらうというワークショップ(この場合は体験型の共 同作業)を2007年から毎年1回、計3回開催しました。このとき生まれたペラペラの鉄 の部品を、一つの彫刻作品として完成させてのが、この作品です。

この共同アトリエで、小さな子どもから高齢の方まで無心に鉄を叩くという光景は、こ の場でしか成立しない出来事で、残された鉄の部分は「街の記憶」になった、と作者は言 います。

また、鉄製品そのものも、ここに廃材として辿り着くまでに様々な人の記憶を掘り下げ ていく作業は、その過程で数多くの「人の気配」と出会う仕事であったそうです。

文字も数字もないこの本は無言でありながら、数多くの市民の気配を語っています。

この彫刻に関わる全てが街と深く結びつくものであり、冷え固まった鉄は不変の記憶と なるとの想いから、「一冊の街」と題されました。

小沢さんは公募で選定され、制作にあたりました。

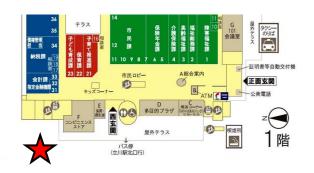


アート番号⑥

作品名 おはなし

作者名 茂木弘之(もぎ・ひろゆき)





この彫像は終戦 50 周年を記念して、平成7年8月15日に、市役所庁舎玄関前の噴水 地内に設置されました。作家の選定については、当時の文化推進懇談会(評論家や美術館 職員等で構成)が茂木氏へ制作依頼を決定しました。

平成22年5月に庁舎が移転するに伴い、本作品も現在の位置に移動しました。像の背後には、立川市の平和都市宣言(平成4年)と、立川市民憲章(昭和57年)の碑が設置されています。

ある個展での作者のメッセージ

「似たような色 似たような大きさ そんな石ころの中から

少しでも異なった色 少しでも異なった形の石を見つけようとしている

·····・・・・ それに似た作業をしています」

庁舎の片隅で静かにたたずむ女性の像は、恒久の世界平和を願う立川市民の祈念の象徴となっています。



アート番号⑦

作品名 「ようこそ!」

作者名 K'S factory (ケーズ ファクトリー)

【辻本喜代美(坂本喜代美)(つじもと・きよみ)、安東 桂(あんどう・けい)】

設置場所 1階総合案内



設置場所】

作者の一人である辻本喜代美(坂本喜代美)さんは、立川市出身、女子美術大学卒業の 陶造形作家。また、安東桂さんは、東京学芸大学卒業の金属造形作家です。市役所を訪れ た市民にとって、まさに庁舎の顔となる総合窓口。この総合窓口が、親しみやすく、思わ ず立ち寄りたくなる「庁舎内の公園」となるように、デザインされました。そのため、都 市の中の公園的イメージの下、全体的に曲線が多く用いられています。また、素材も壁面 は防水性に優れ郷土もある土壁素材を用い、カウンターや机部分には木材が使われていま す。加えて、サインボードは銅と木材を用いて、温かみのある雰囲気となっています。

愛されるキャラクターとして、かつて立川が里山や田園だった頃、人と共存していた多 摩の小動物が、陶器の人形やレリーフ装飾として配置されました。

役所という少々堅苦しい印象の施設に来た老若男女の皆さんが思わずほっこりするよう な庁舎の顔を思い描いて、制作にあたったとのことです。

この作品は、公募で選ばれ、国際ソロプチミスト立川及び東京立川ライオンズクラブの 寄附により設置されました。







■立川市役所の絵画

アート番号8

作品名 Kurdish Dance <クルド人の踊り> (クルディッシュ ダンス)

作者名 鞍井綾音(くらい・あやね)

経 歴 昭和44年兵庫県芦屋市に生まれる。昭和63年に武蔵野美術大学アートデザイ ン学部油絵科に入学。その後ニューヨーク在住しています。

平成 11 年には The Joan Mitchel Foundation Grand Award を受賞。

B ATM 公表電話

日本、アメリカ、ブラジルなど世界で活躍しています。

サイズ 縦 1,320 mm×横 1,620 mm



この作品は、立川市在住の世界的なジャズ・ピアニストである山下洋輔氏の同名の曲に ヒントを得て制作された作品で、同氏より立川市に寄贈されました。

これを記念して、平成 26 年 11 月 19 日にセレモニーとミニライブが、市役所 1 階口 ビーで行われました。

なお、山下氏は平成27年4月に「たちかわ交流大使」に任命されました。





■立川市役所の絵画

アート番号9

作品名 花の頃

作者名 坂口節子(さかぐち・せつこ)

経 歴 昭和 15 年静岡県浜松市生まれ。昭和 38 年女子美術大学洋画科卒業。

結婚するまでは故郷の浜松市の高校で美術の講師として過ごしました。

学生時代から伯父の紹介で、佐伯祐三夫人の米子先生に師事し、二紀展、女流 展などに出展しましたが、現在は、二紀展ひとすじで制作をしています。 正面玄関

国立駅南口にある、たましん美術館には『坂口節子作品集

The Collection of SETSUKO SAKAGUCHI』 (平成 18年) の資料 が閲覧できます (要入館料)。

制作年等 平成 10年。油絵 F80号

設置場所 1階ロビー 【 🔭 設置場所】

「作者は、花の絵や仏像の顔をテーマとした作品を多く描き、オーガニック(有機栽培)な形態の集合による抽象画は何かが誕生して、成長する、そして展開するような不思議な風を感じます(松葉口忠雄氏―二紀会会員、日本美術家連盟会員)」

本作品は「花の頃」と名称がついておりますが、正式には**『花の頃(こぶし)**』と称し、こぶしの花を画面いっぱいに描きました。ちなみに立川市の花がこぶしです。





